

# 思考力・判断力・表現力を育む 学習指導はどうあるべきか

## 1年次「学習意欲の向上のための工夫」

相馬市立中村第二中学校

### <はじめに>

学習指導要領総則では、学び方の定着と学習意欲の向上により、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、自ら学び考える力など、21世紀に通用する「生きる力」を育成することを目指している。生きる力を育むにあたっては、生徒の発達段階、学校の実態、教科等の指導内容の特質を十分に踏まえつつ、習得された知識・技能を活かして、思考・判断・表現する学習活動を展開することが必要である。したがって、「思考力・判断力・表現力」の育成に焦点を当て、研修を深めていきたいと考える。

本校の教育目標「自ら学ぶ生徒」、重点目標「自ら学び、友に高め合う」の達成を図るためには、一人ひとりが願いを持って主体的に課題に取り組むことが大切になる。自ら学び、自ら考え、主体的に行動して、よりよく問題を解決する資質や能力である「生きる力」を培わせたい。そのために、今の学習が将来のために必要であることを理解させ、知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につかせ、本校の教育課題の解決に取り組んでいきたいと考える。

上記の理由から、本校の現職教育部では、「生きる力」の一側面である、自ら学び、自ら考え、主体的に行動して、より良く問題を解決する資質や能力に重点を置き、研究主題の「思考力・判断力・表現力を育む学習指導はどうあるべきか」の3年間計画を立てている。本年度は1年次・はじめの年であり、副主題「学習意欲の向上のための工夫」に取り組み、生徒一人ひとりに応じた支援を念頭に日々の学習指導を進めてきた。昨年の成果や課題を踏まえ、日々の授業の実践をもとに個人研究に取り組むことを全体的な研究の流れとし、研究を推進していきたいと考えた。

本研究物は、基礎的・基本的事項を定着させ、思考力・判断力・表現力の育成に向けての指導上のポイントや指導方法の工夫と改善、教材の作成や評価の工夫など、各教科で試行錯誤しながら実践した内容を研究集録としてまとめたものである。

## 1 現職教育の目標

- (1) 本校の教育目標の具現化を図り、生徒一人一人の望ましい成長と人間形成を図るために、指導方法の工夫と技術の向上に努める。
- (2) 学習指導要領の趣旨を生かし、本校の生徒の実態に応じた教育課程の研究改善に努める。
- (3) 全教職員の共通理解のもとに、それぞれの特性を生かしながら研究を推進する。
- (4) 社会の多様な変化に対応できる教育的識見を養うため、教育者としての専門的な研修を深める。

## 2 現職教育の基本方針

本校が有する教育課題の改善に向かって、教師一人一人の資質の向上を目指す研究を進める。

## 3 研究主題

思考力・判断力・表現力を育む学習指導はどうあるべきか  
1年次（本年度）・・・「学習意欲の向上のための工夫」  
2年次　・・・・・・・・・・「互いの考えを学びあうための学習指導の工夫」  
3年次　・・・・・・・・・・「学習内容を活用するための指導の工夫」

## 4 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領の趣旨から

学び方の定着と学習意欲の向上により、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、自ら学び自ら考える力など、21世紀に通用する「生きる力」を育成することを目指している。

これらは、生徒の発達段階、学校の実態、教科等の指導内容の特質を十分に踏まえつつ、習得された知識・技能を活かして、思考・判断・表現する学習活動を展開することを必要としている。そこで、「思考力・判断力・表現力」の育成に焦点を当て、研修を深めていきたい。

### (2) 教育目標との関連から

本校の教育目標の「自ら学ぶ生徒」、重点目標「自ら学び、共に高めあう」の達成を図るためには、一人ひとりがねがいをもち主体的に課題に取り組むことが大切になる。自ら学び、自ら考え、主体的に行動して、よりよく問題を解決する資質や能力である「生きる力」を培わせたい。そのために、今の学習が将来のために必要であることを理解させ、知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につけさせたい。これらをねらいとして本校の教育課程が編成されている。

各教科でも知識・技能の定着とその活用を図った学習活動を展開するよう配慮して指導計画が作成されている。

## 5 研究仮説

1つの単元（題材）あるいは1時間の授業において、次のような視点で指導法を工夫すれば、思考力・判断力・表現力を育むことができるだろう。

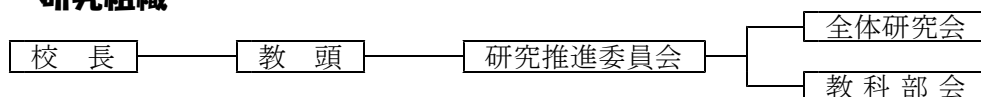
- (1) つまづきやすい内容をはじめとした基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、わかる喜びを実感できるよう、指導内容を工夫する。
- (2) 自ら学び、自ら考え、判断し、よりよく問題を解決する力を養うために、体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れ、学んだことや感じ取ったことを発表したり、伝え合う学習活動に発展するように工夫する。
- (3) 自力で解決した学習内容の定着と、その活用を図った学習活動を展開する。

## 6 研究方法と内容

※ 3年間の計画の1年次として、本年度は「学習意欲の向上のための工夫」に取り組む。

- (1) 思考力・判断力・表現力を育むためには、生徒が自ら意欲的に学習に取り組むことが必要であり、その指導方法・指導体制を工夫する。
- (2) (1) を基にして重点目標（研究テーマ）を設定し、授業やその他の活動で各教科部会毎に研究を実践し、成果と課題をまとめる。
- (3) 集団の中で学び合い、互いの考えを伝え合う力を身につけさせるために、考える、選択する、話し合う、発表するなどの場と時間を意図的に設定し、研究を進める。
- (4) 生徒の思考力・判断力・表現力を育てるための適切な評価のあり方を工夫し、言語活動の充実に努める。
- (5) 基礎学力向上確認テスト（漢字，計算，英単語：年6回），文化祭の作品展示など具体的な目標を立てて取り組ませ、励ましながら，結果を積極的に評価するなど，学習意欲を高めるための取り組みをする。
- (6) 年2回「学習に関するアンケート調査」を行い，生徒の学習の取り組みの実態をとらえるとともに，その変容を十分に検討し，学習指導に役立てる。

## 7 研究組織



## 8 研究計画

時期	実践目標	実践内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究仮説の作成，研究体制の確立</li> <li>・授業研究体制の確立</li> <li>・学校訪問の指導案作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究仮説の確認と共通理解・研究計画の確認</li> <li>・教科ごとのテーマ設定</li> <li>・研究の視点の検討 ・指導案の検討</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握（第1回）二小二中情報交換会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等の意識調査の実施</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究実践方法の内容理解</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会（中二中）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマに迫る授業の実施</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科での研究推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題にせまる活用場面の指導案構想</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究実践方法の内容理解 ・個人研究の発表</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研修会の実施（小中連携の確認）</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会（中二小）</li> <li>・研究実践のまとめと反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の視点にもとづいた授業研究の実施</li> <li>・授業研究会の実施，反省</li> <li>・研究主題，仮説，組織，運営についての評価と反省</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究実践のまとめと反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ</li> </ul>
1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握（第2回）</li> <li>・研究実践のまとめと反省</li> <li>・次年度の研究実践案の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等の意識調査の実施（変容調査）</li> <li>・研究のまとめ</li> <li>・次年度の方向性の決定</li> <li>・次年度の指導計画、評価基準の工夫・改善</li> <li>・各教科部会</li> </ul>

## 9 研究実践の概要

<全体での取り組み>

- (1) 学力向上グランドデザインの作成をし「学力向上の工夫・学習習慣の確立のための工夫・啓発・広報のための工夫」の3つの視点からの取り組みを実践した。
- (2) 学習指導の共通理解をするために「前日・授業前・授業始め・授業後」の指導事項や授業中の学習訓練の方法を具体的に提示し、教師間や生徒との共通理解を図った。
- (3) 月ごとの学習指導の重点と具体的実践事項の確認をし、具体的な学習指導の共通理解を図った。
- (4) 各教科部ごとの研究テーマおよび具体的実践事項について計画作成し、普段の授業内ではもちろん、研究授業を行うなどして研究を推進し、成果と課題をまとめた。
- (5) 基礎学力テストを計5回実施。テスト1週間前から朝自習や家庭学習で練習をし、合格率80パーセントを目指し取り組ませた。教科担任が再テストを行い、基礎学力が定着するよう個別に指導した。
- (6) 学習アンケートを5月・1月に行い、生徒の実態について正しく分析し、その変容についてまとめた。今後の学習指導の改善の参考としている。
- (7) ICTの積極的な活用。

<各教科での取り組み>

教科	研究テーマ	おもな実践事項
国語	豊かな言語生活を支える生きて働くことばの力を身に付けさせるための指導はどうあるべきか。～ 韻文における指導の工夫～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的好奇心を喚起する学習目標の設定</li> <li>・ 漢字小テストの実施</li> <li>・ 辞典、資料の有効活用</li> </ul>
数学	生徒の思考、判断力を高めるための課題設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導の充実</li> <li>・ 自分の考えを発表する場面の設定</li> <li>・ 自己評価の活用</li> </ul>
英語	4技能を関連させ、意欲的に言語活動に取り組ませる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な話題を取り入れ、英語への関心意欲を高める。</li> <li>・ パートごとの予習、英単語テスト、週末課題による家庭学習の習慣化。</li> </ul>
理科	自然現象への関心・意欲・態度を高める学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項の復習から導入する。</li> <li>・ 意欲を高めるための教材開発や学習課題の工夫。</li> <li>・ ICTを効果的に活用する。</li> </ul>
社会	資料をもとに、自分なりの考えを持ち、それを表現することができる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題を明確に示し、授業に対する意識の向上を図る。</li> <li>・ 資料集・副教材を有効に活用する。</li> </ul>
音楽	基本的な学習の定着を図る授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な音楽体験を通し、音に対する意識を高める。</li> <li>・ 個別にアドバイスする機会を設ける。</li> </ul>

教 科	研究テーマ	おもな実践事項
美 術	美術の関心を高め、生活に生きてはたらく力の育成 ～ 美術と日常生活の結びつきを、どう気付かせるか ～	・身の回りのデザインのなかに利用されている技法や発想や授業で学ぶ技法や発想を関連付ける。
保健体育	自分の動きを認識し、お互いに教え合うことで、正しい知識を身につけ、技能・技術を高めるための指導の工夫	・グループ編成やリーダーの育成を行い、意見の交換ができる場と時間を確保する。 ・保健の授業においてもグループやペアで意見交換させるなど、表現する機会をつくる。
技術家庭	生徒の創意工夫を取り入れた教材活用の工夫	・教材提示や教師の演示により、学習内容の定着を図る。 ・ワークシートやICTの活用。

## 10 成果と今後の課題

本年度は研究テーマ「思考力・判断力・表現力を育む学習指導はどうあるべきか」の3年次の1年目であり、(副主題)である『学習意欲の向上のための工夫』について各教科で具体的実践事項を設定し、授業を中心に検証活動を行ってきた。また、集団の中で学び合い、互いの考えを伝え合う力を身につけさせるために、「考える」、「選択する」、「話し合う」、「発表する」などの場と時間を意図的に設定し、課題に意欲的に取り組む指導の工夫を実践してきた。その成果と課題について次の点が挙げられる。

<成果>

- 確認テストや既習事項の確認、ipad での問題を毎時間繰り返すことで、少しずつ学習内容が定着してきた。
- 動画や演示実験など視覚的効果を多く取り入れたり、具体的な活動や身近な場面を設定したため、関心・意欲を持って授業に取り組むことができた。
- 書くことや、図や資料などに時間をかけて読み取らせる時間を確保することによって自分なりに考えることができるようになり、発表することができ、自ら学ぶことに対する充実感や達成感を得ることができた。
- 各教科ごとに研究テーマを設定し検証することにより、生徒の課題を把握でき、自らの授業に活かすことができた。
- 各教科統一して毎時間ごとに学習課題記入させたり、まとめの時間を確保することによって授業に目的意識を持って取り組んだり、学習内容の確認ができ、学習内容の定着が図れた。

<課題>

- 授業のルールをしっかり身につけさせ、学習意欲や態度を育てる必要がある。
- 基礎・基本を発展させた活動や身につけたことを相手に分かりやすく表現するスキルが十分に身につけていない。段階を踏んで説明できるような指導の工夫が必要である。
- 学力を伸ばすための習熟度別指導や発展的・補足的な学習指導について、教科に応じた研究をさらに進めていく必要がある。また、下位生徒に対しての学習支援の工夫も今後の課題である。
- 理解しやすい内容だと関心・意欲を持って取り組むが、少し考させる問題だと半数近くの生徒は意欲が持続しない。
- アンケートの結果から自分の考えを積極的に発表する生徒生徒の割合が低く、「表現力」と「かかわる力（コミュニケーション能力）」の育成・向上を教科指導以外の特別活動等で、教科横断的な内容を取り上げての指導に積極的に取り組んでいく必要がある。

以上のことから、研究テーマである「思考力・判断力・表現力を育む学習指導はどうあるべきか」、副主題『学習意欲の向上のための工夫』について、教師一丸となって授業での検証（授業改善）を進めた結果、少しずつではあるが授業に意欲的に取り組み、自ら考える生徒が増えてきた。しかし、相手に伝えたり、自分の言葉でまとめたりすることが苦手であり、今後、表現力の育成が必要である。

次年度は、研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導はどうあるべきか」の2年次であり、副主題『互いの考えを学びあうための学習指導の工夫』に重点を置き研究を行う予定である。今年度の研究と成果と課題、生徒の実態を踏まえ、「研究仮説」や「研究の方法と内容」を十分に検討し、生徒一人一人の学力が向上するよう学習指導の研究を進めていきたい。